

令和5年9月29日（金）

【照会先】

国立感染症研究所総務部

総務部長 中平 純一（内線 2010）

総務課長補佐 永田 幸子（内線 2021）

（代表電話）03（5285）1111

報道関係者 各位

国立感染症研究所職員の腸チフス感染に関する

調査結果及び再発防止策について

8月18日に公表した当所職員の腸チフス感染事案については、当所病原体等取扱安全監視委員会による感染原因等の調査が行われた結果、同職員が検査・研究を行っていた実験室内での曝露による感染と判断されましたのでお知らせいたします。

同職員は現在入院中であるものの回復に向かっており、また、本事案に起因する二次感染は確認されておらず、新宿区保健所による積極的疫学調査において健康観察対象者全員の陰性が示されています。

なお、現在当該実験室は使用を中止しており、安全確認が完了した後、使用を再開する予定です。

また、病原体等取扱安全監視委員会による調査結果等を踏まえ、当所バイオリスク管理委員会においてとりまとめられた再発防止策案に基づき、当所として再発防止策をただちに実行することとしました。病原体等取扱安全監視委員会調査報告書とバイオリスク管理委員会より提案された再発防止策案を、以下にご報告いたします。

国民の皆様にはご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今回示された再発防止策案に則り、今後、より安全な研究の実施に努めてまいります。

「調査結果及び再発防止に向けての取組について」

- 1 病原体等取扱安全監視委員会による調査報告書（9月12日）
 - ・当該実験室の実況見分による実験室運用方法の確認
 - ・当該実験室で取り扱われている菌と当職員から採取された検体のゲノム解析による比較

- 2 バイオリスク管理委員会による再発防止策案報告書（9月29日）
 - ・当該実験室及び当研究所のすべてのBSL2実験室における安全操作指針の遵守状況の確認
 - ・各実験室の運用実態を適切に反映した実用的な実験室使用マニュアルの整備
 - ・病原体等取扱者に対する再教育及び教育・研修の強化

以上